

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25590035

研究課題名(和文) フィラデルフィア万博に注目した米中日国際文化関係の研究

研究課題名(英文) Research on Intercultural Relations among America, China and Japan at the Centennial Exhibition of 1876

研究代表者

福田 州平 (Fukuda, Shuhei)

大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・特任研究員

研究者番号：50434585

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1876年開催のフィラデルフィア万博に関して、それが多数の国家が参加したことに注目して研究を進めた。同万博で注目されるのは、日本と中国が参加していることである。日本と中国の展示は、「進歩」の度合いで対比され、評価された。特に日本は、一方では「進歩」したものとして、他方では人種的に劣位にあるものとして位置づけられた。

次に本研究は、メインパビリオンの一つである機械館に着目して、同館におけるアメリカの機械の展示を分析した。コーリスエンジンをはじめとする展示物は、その諸外国からの評価は極めて高いものだった。これによって、フィラデルフィア万博は、開催目的の一つである国際的地位向上に貢献した。

研究成果の概要(英文)：This project firstly considers the Centennial Exhibition of 1876, concerning the importance for the participation of foreign countries. While many countries participated in the exhibition, this project focuses on China's and Japan's participation. Comparisons of the exhibits from China and Japan were viewed with considerations of "progress." At that time, Japan was valued as "progressive" and China was valued as "unprogressive." While Japan was considered "progress" during the exhibition, she was also regarded to be the lesser race.

This project secondly focuses on Machinery Hall, one of the main pavilions at the exhibition, and the machinery exhibited at the Hall. America's exhibits, particularly its machinery, attracted much attention at the exhibition. America's machine technology ---- symbolized by a Corliss engine ---- contributed much to the elevation of the country's international status, which was the purpose of the exhibition.

研究分野：国際関係論

キーワード：フィラデルフィア万博 国際的地位 世界秩序像 イデオロギー 科学技術 メディア

1. 研究開始当初の背景

現在、アメリカ、中国、日本の三カ国が世界の GDP に占める割合は、約 4 割であり、これら三カ国の動向が世界の行方に大きな影響を与えるといっても過言ではない。それゆえ、三カ国間関係の分析は非常に重要なはずであるが、アジア太平洋の国際関係はパイの関係でとらえる傾向が強く、さらに三カ国の関係史となると研究があまりされていない。そこで、本研究は、万博という政治的イベントに注目し、三カ国関係を特に文化に着目して考察しようとして計画された。

もともと、本研究の着想は、ロバート・ライデルの博覧会研究に触れたことに始まる。ライデルは、アメリカが開催した万博における政治的意図や権力作用を明らかにした。もっとも、ライデルをはじめとする博覧会研究は、国際関係の視点が希薄であった。また、本研究で注目したフィラデルフィア万博に関して、日本における先行研究は、主に日本政府がまとめた報告書に拠るものが多く、フィラデルフィア万博を運営していた百年委員会の報告書に拠って分析したものはあまり見られなかった。

2. 研究の目的

本研究では 1876 年に開催されたフィラデルフィア万博に注目した。同万博は、アメリカの建国百周年を記念して開催された万博であり、そして日本と中国(当時の清)の両国がそろって公式に参加しているからである。つまり、米中日が一堂に会したおそらく最初期の政治的イベントである。

同万博において、多くのアメリカ人が初めて「日本」や「中国」に触れ、他方で日中両国は、西欧的な「近代」の力を目の当たりにした。そこで、本研究では、フィラデルフィア万博という場で生じた三カ国間の文化触変を明らかにすることが目的であった。特に、アメリカがフィラデルフィア万博を開催するに至った背景、同万博における日本と中国に関する評価の実際、そして日本や中国がフィラデルフィア万博を通じて見たアメリカのイメージを分析することを目的としている。

3. 研究の方法

本研究は、国際文化関係史の研究であり、研究期間を通じて、フィラデルフィア万博および関連する一次史料と二次史料を収集して、読み解いていくことが基本作業だった。本研究の一次史料収集に関しては、主に、フィラデルフィア市のペンシルバニア歴史協会などで収集した。また、中国側の資料として、フィラデルフィア万博を訪問した官吏の報告書も収集した。また、フィラデルフィア万博に関する先行研究、特にアメリカで行われた研究の整理も同時並行で行った。

本研究に取り掛かると、実際には、フィラデルフィア万博に関する内外の先行研究が

ら日本や中国に関する議論を掘り起こし、一次史料を基に批判的に読み解いていく作業が多かった。そして、百年委員会の報告書、および開催当時の雑誌や新聞の記事、あるいはガイドブックなどから日本や中国に関する記述を取り上げ、ディスコース分析を行い、当時のアメリカにおける日本と中国のイメージについて検討を行った。また、パピリオンの配置図から、当時のアメリカが描いていた世界秩序像や人種的イデオロギーを読み解く試みも行った。

研究を進めていく中で、フィラデルフィア万博のメインパピリオンの一つである機械館の重要性が次第に明らかになってきた。そこで、当時の主要国であるイギリス、フランス、ドイツからのアメリカの機械類に関する評価と、機械館におけるアメリカ、イギリス、ドイツ、フランスの配置を、当時の四か国の工業力のデータと照らし合わせて分析を試みた。

4. 研究成果

本研究では、1876 年に開催されたフィラデルフィア万博におけるアメリカのアイデンティティおよびイデオロギーについて、同万博において諸外国の参加が重要な要素であったことに着目して考察を行った。そして、同万博において、日本の展示物が好評を博したとする従来の評価を当時の文献などを基に批判的に検討した。

万博は、一般的に、(1)自国の発展を示すため、(2)自国経済を刺激するため、(3)比較による産業分野の創意工夫を刺激するため、(4)文化的娯楽や教育のため、(5)プロパガンダのため、を理由として行われる。しかしながら、本研究が注目したのは、フィラデルフィア万博が、「万博」だったことである。つまり、フィラデルフィア万博の開催は、新興国アメリカに対する国際的認証という動機を抜きに語れない。そのために、海外の産物と自国の産物を比較できるように展示し、見る者に自国の競争力を知らしめる必要があり、外国の参加が不可欠だった。言い換えれば、フィラデルフィア万博は、アメリカという国家そのものが、もやは「半開」ではなく発展を遂げ、西欧に伍する国家であるという国際的な認証を受け、さらにはアメリカという国家のアイデンティティを確認するためのイベントだった。

そして、本研究では、日本の美術品・工芸品が注目を浴び、アメリカで日本を強く印象付けたとする従来の評価について言説分析を試みた。開催当時、日本の展示物への高評価は、中国との展示物との対比でなされることがあり、その言説を検討のである。その比較の言説の中では、日本は「文明」とされ、中国は「保守」として位置づけられていた。また、当時のアメリカでは、中国人移民の問題も生じていた。こうした社会的背景も日中比較言説に影響していたことが考えられる。

続いて、本館の展示レイアウトについて検討を行った。本館では、人種的なインスタレーションシステムの採用が試みられた。このインスタレーションシステムのなかでは、日本も中国も同様に扱われ、アングロ・サクソンに從属する存在として示された。以上から、本研究では、日本がフィラデルフィア万博において、一方では「進歩」した国として、他方では人種的に劣位にある国として扱われる二重の存在だったことを明らかにした。

フィラデルフィア万博は、アメリカの展示物、特に機械類が注目を集めた。それは、諸外国の知識人からも賛辞を受けるものであり、西欧諸国から「半開」のイメージを持たれていたアメリカの印象を変えるだけのパワーをもっていた。その機械類が展示されたのは、主要パビリオンの一つである機械館だった。そこでは、アメリカの展示物が展示スペースの約4分の3を占め、他国を圧倒していた。そして、展示物の量で諸外国に優っていただけでなく、質の面でも注目を浴びた。フィラデルフィア万博開催の目的の一つは、「西欧に伍する国家であるという国際的な認証」を獲得するところにあり、機械館の展示物は、その目的を果たすのに十分に貢献したものである。

もっとも、フィラデルフィア万博の研究において、機械館に注目したものは、少ない。Hicks (1972) が、第5章で、フィラデルフィア万博での展示物に見られる「科学および技術」を論じ、Post (1976) が、同万博での機械類について論じた小論を何点か収めている程度である。機械館そのものを分析した論考は、管見の限り見当たらないのが現状である。しかしながら、こうした状況は、フィラデルフィア万博において機械館が重要な位置づけではなかったということの意味しない。むしろ、アメリカがフィラデルフィア万博で示そうとしていたイメージを論ずるには、機械館の分析は避けて通れないはずである。そこで、本研究では、万博を「メディア」として位置づけた上で、同館の展示に対する諸外国（イギリス、ドイツ、フランス）の知識人の反応、展示の様子、および配置図から読み取れることの分析に取り組んだ。そして、コーリス・エンジンに象徴されるアメリカの機械技術の高さが、フィラデルフィア万博の開催目的を果たすことに貢献したことを明らかにした。また、フィラデルフィア万博でアメリカの機械技術に圧倒されたのは、西欧の知識人だけでなく、たとえば同万博を訪れた菊池武夫もそうであった。中国側の反応について、現在、史料を精査中であり、これについては、いずれより詳細な日中の反応について明らかにすることが期待できる。

また、期間中に十分に明らかにできなかったが、収集した史料に基づいて、次のような研究にも取り組んでいる。フィラデルフィア万博における褒賞制度の研究である。そもそも、万博における褒賞制度は、1851年のロ

ンドン万博から見られる。特に、1855年のパリ万博では、報奨制度に権威をもたせるように工夫し、それがワインなどのブランドの確立につながったことはよく知られている。パリ万博での褒賞システムは、展示品に階級別のメダルを授与するもので、その中でも最高とされたグランプリの獲得は、出展企業にとって、当時としては最高の宣伝材料となったといわれている。

1876年にアメリカ・フィラデルフィアで開催されたフィラデルフィア万博においても、褒賞制度は存在していた。しかし、1855年のパリ万博で見られたのとは異なる制度が採用されていた。まず、署名入りのレポートに基づいて褒賞メダルが授与されることになった。そして、その審査を行う総勢200名からなる専門家集団の半数はアメリカ人で、残り半数はアメリカ外から招かれた。褒賞の審査は、審査項目別に28グループに分けられ、専門家たちはそれぞれの専門分野のグループに属したが、そのグルーピングの際には、「代表性よりも公平性」の原則が貫かれた。つまり、アメリカ以外の国でもっとも多いイギリスからの専門家でも、28グループ中の18グループに参加しているにすぎない。このほかにも従来の万博とは異なるシステムの採用を試み、これは後にアメリカン・システムとして知られるようになった。1855年のパリ万博の褒賞制度は、1867年のパリ万博では署名入りレポートに変わったものの、その後の1878年および1889年の万博では、以前の制度に多少の変更を加えた形に回帰している。他方、フィラデルフィア万博で採用された褒賞におけるアメリカン・システムは、後の1893年のシカゴ万博でも採用され、後にアメリカで開催された万博の一つの原型ともいえるものとなった。

しかしながら、褒賞におけるアメリカン・システムは、その分類や審査原則などを貫こうとするあまり、さまざまな問題が生じた。たとえば、商品化に適した審査原則を美術品の審査でも採用しようとし、フィラデルフィア万博を運営する百年委員会と美術の審査員団の間で対立が生じている。また、フィラデルフィア万博では、機械や美術品といった「モノ」だけではなく、アメリカ国内外の教育システムについても展示が行われている。現在取り組んでいる研究では、この教育システムを審査したグループの報告書に注目して、同報告書において、どのように日本と中国が扱われたのかについて考察を進めているところである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

福田州平「フィラデルフィア万博における諸外国の参加をめぐる日本と中国の展示

をめぐる評価のディスコースとアメリカのアイデンティティおよびイデオロギー」『インターカルチュラル』13号（掲載頁：pp.95-112）

福田州平「フィラデルフィア万博の機械館で示されたアメリカのイメージ」『文明』20号（掲載頁：pp.113-120）

〔学会発表〕（計 5件）

福田州平「1876年フィラデルフィア万博における米中日関係の研究に向けて」第7回国際セミナー「現代中国與東亜新格局：発展・共識・危機」（開催地：大阪大学豊中キャンパス、発表日：2013年8月22日）

福田州平「「フィラデルフィア万博の開催における外国の参加」第13回日本国際文化学会全国大会（開催地：山口県立大学、発表日：2014年7月5日）

福田州平「フィラデルフィア万博における日中展示の評価をめぐって」第8回現代中国と東アジアの新環境（開催地：中華人民共和国・鄭州大学、発表日：2014年8月24日）

福田州平「フィラデルフィア万博の機械館に見るアメリカのソフト・パワー」第14回日本国際文化学会全国大会（開催地：多摩大学、発表日：2015年7月4日）

福田州平「1876年フィラデルフィア万博における褒賞制度に関する考察」第15回日本国際文化学会全国大会（開催地：早稲田大学、発表日：2016年7月17日）

〔図書〕（計 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福田 州平（FUKUDA, Shuhei）
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・特任研究員
研究者番号：50434585

(2) 研究分担者

（ ）

研究者番号：

(3) 連携研究者

（ ）

研究者番号：